

府中市議会 第14回議会改革特別委員会会議録（要約）

令和元年7月3日午後1時30分、議会改革特別委員会を第二委員会室において開会した。

1 出席委員

委 員 長	三 藤 毅	副 委 員 長	本 谷 宏 行
委 員	加 納 孝 彦	委 員	安 友 正 章
委 員	土 井 基 司	委 員	加 島 広 宣
委 員	岡 田 隆 行		
副 議 長	大 本 千 香 子		

1 欠席委員

なし

1 説明のため出席した者

なし

1 事務局及び書記

事 務 局 長 赤 利 充 彦 議 事 係 長 小 林 正 樹

1 本日の会議に付した事件

- (1) 調査事項のまとめについて
- (2) その他

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

午後1時30分 開会

1 調査事項のまとめについて

調査事項（情報発信）について、会派に持ち帰り協議した結果をもって、どのようにまとめるか協議を行った。

(1) 現在の取り組みの充実及び拡充

ア 議会だより

(ア) 各会派から報告された内容

現在、どのぐらいの市民が読んでくれているか不安。声がキャッチできていない。一方通行になっていないかの心配がある。

- ・読んでの感想や市民のみなさんの「声」を入れた市民交流版的なものにし、必ず紙面の終わりに、切り取り、もしくはFax送信できるミニ用紙を付ける。
- ・議員が視察で研修したこと、学んだことなども読みやすいタッチで入れる。
- ・「議会傍聴記」的なものも入れ、「行って聴いてみようかな」と思われる方を増やす。
- ・議会だよりの議員による配布。

- ・広報ふちゅうと一体化

(イ) 委員からの意見

- ・議会だよりについては、充実、拡充が必要。
- ・一方通行の危険があるので、双方向の情報交換が必要。
- ・情報交換ができる仕組みづくりを検討する。
- ・これらの取り組みは、広報広聴特別委員会で詳細に検討すべき。

イ ホームページ

(ア) 各会派から報告された内容

- ・HPのトップページに議会を入れる。
- ・政務活動費の領収書のHPでの公開。
- ・議長、副議長、議員の公務日程公開。
- ・議案等の公開。

本会議や委員会での議論がより理解できるように、議案や報告の内容を府中市HPなどで公開する。報道発表された時点で公開されているので、議会から公開するのは問題ないと考えられる。また、タブレット化によって、全ての資料がPDF化されているので、それほど事務的な負担もかからない

- ・会議録公開の迅速化。

先端情報処理技術の活用、本人添削による内容の整理、要約版の作成。

(イ) 委員からの意見

- ・会議録公開の迅速化の項目の、本人添削による内容の整理、要約版の作成については削除する。
- ・府中市ホームページのトップページに議会バナーを表示すべき
- ・市民からの意見を汲み取る仕組みが必要
- ・これらの取り組みは、広報広聴特別委員会で詳細に検討すべき。

ウ 議会報告会

(ア) 各会派から報告された内容

- ・議会での論点を明らかにした形へ変更。
- ・出前（おしかけ）議会報告会。
- ・様々な会合などへ赴く形へ。
- ・昨年から「議員と語る会」。このスタンスでいく。「よりよい府中市政をつくる集い～ぜひあなたの声を聴かせてください～」的な呼びかけで行う。
- ・委員会の意見交換会の拡充。

(イ) 委員からの意見

- ・月に一回程度「ミニ議会と語る会」など、間口を広げる一貫として取り組む。
- ・今まで行ってきた、議会報告会、意見交換会は継続し、さらなる充実が必要。
- ・市民の声を聞く場の充実。
- ・議会報告会という一方向ではなく、双方向の意見交換会が必要。

エ 議場の開放

(ア) 各会派から報告された内容

- ・議会の時だけでなく、市民が使用できるようにし、イベントなどにより、議場に足を運んでいただき、少しでも身近に感じてもらう。
- 例えば、コンサートの開催、映写会、夏休みの子供の学習室など。

(イ) 委員からの意見

- ・議場でイベントはそぐわないのではないか。
- ・他市では、議場コンサートを行った事例もある。
- ・議会、議場へのハードルを下げる効果、知ってもらう効果があるのではないか。
- ・議場は、選挙で選ばれた人が入るという考えもある。
- ・傍聴者を増やすため、議場を身近に感じてもらう必要がある。

(2) 新たな取り組み

ア SNSの活用

(ア) 各会派から報告された内容

- ・「府中市議会、ここが旬！」的なページを持って更新していく。
- ・プロジェクトチーム（3名ぐらい）をつくり、週1回か2週間に1回の更新をめざし公開していく。
- ・肩の凝らない、議員の投稿などでページを作る。
- ・「へえ～、議員ってこんなことしているのか」「こんなことを考えているのか」などが気軽にキャッチできる。
- ・Facebook、ライン、ツイッター等の研究が必要。
- ・ホームページに自由意見欄を設けて、議会中、審査内容に関する情報を受け取るシステム。
- ・他の自治体のSNSなども研究し、いいものは取り入れる。

(イ) 委員からの意見

- ・特定の議員へ負担が集中する可能性がある。
- ・発信しても面白くないのではないか。
- ・SNSはリスクがあるので慎重に検討すべき。
- ・議会として行うのではなく、議員個人で行えばいいのではないか。

- ・決定事項は発信してもいいのではないか。
- ・できるかどうか、行う場合は内容も含めて、慎重に検討する。

イ 住民との意見交換会

(ア) 各会派から報告された内容

- ・これから課題になるであろう問題の提起・意見聴取も含める。
- ・出前（おしかけ）交換会（テーマを絞って）。
- ・様々な会合などへ赴く形へ。
- ・ミニ・議員と語る会。

「あなたの声を聴かせてください！」と称して「ミニ議員と語る会 ～」を1ヶ月に1回、道の駅や天満屋などにコーナーを設けて、市民の声を聴き、政策提言に生かしていく。議員は3人ずつぐらい輪番で当たる。半年に1回ほど自分の番が回ってくる。

(イ) 委員からの意見

なし。

ウ アンケート箱設置

(ア) 各会派から報告された内容

- ・「議会にあなたの声を！」的なアンケート箱を公民館などに設置する。
- 「声」コーナーに反映する。

(イ) 委員からの意見

- ・「意見箱」「声の箱」「議会への声の箱」など。
- ・市民の意見を集める仕組みとしては

エ 傍聴者増の取り組み

(ア) 各会派から報告された内容

- ・スマートフォン採決の取り組み。
- ・本会議場に大型モニター設置・ネット中継へのモニター内容の反映。
- ・年1回程度、土日祝日・夜間議会を開催し、会期中の土曜日、日曜日に一般質問の日程を入れて傍聴しやすくし市民の方に関心を高める。
- ・「傍聴ウィーク」なるものを設定。

夜間6時半から8時半を1週間带状に取り、一般質問を行い傍聴してもらう。

（2時間×5日＝10時間＝600分※現在の一般質問は合計で560分）

- ・音響設備、モニター、パソコンを使っての一般質問。
- ・目、耳の不自由な方など、障がい者にも内容が伝わる手段。

要約筆記、手話など

(イ) 委員からの意見

- ・議場の開放
- ・議場の設備の充実が必要。

オ 夜間・休日議会の開催

(ア) 各会派から報告された内容

- ・傍聴者が増える可能性がある。
- ・議員のなり手が増える可能性がある。

(イ) 委員からの意見

- ・傍聴者増を目的として、他市で実施された事例はあるが、費用対効果の検証により辞めた事例が多い。
- ・なり手不足解消を目的に実施している事例もある。
- ・夜間に開催すると、現在、日中に傍聴に来られている市民が来られなくなるので、開催するなら土日ではどうか。
- ・夜間、土日に開催して欲しいという意見が多くなってから、検討すればいいのではないか。
- ・夜間の開催ではなく、土日の開催については検討すべき。

カ 政策実現サイクルづくり

(ア) 各会派から報告された内容

- ・いかに市民の意見を聞き、それを市政に反映、政策提言に繋げるか、そして結果を市に報告するサイクルの確立が必要。

(イ) 委員からの意見

なし。

2 その他

次回の委員会は7月11日に開催することとした。

内容は、「なり手の掘り起し」「環境整備」「情報発信」について、まとめを行う。

また、市民アンケートの集計について報告する。

午後3時12分 散会

府中市議会委員会条例第29条第1項の規定により、ここに押印する。

令和元年 7 月12日

府中市議会改革特別委員会

委員長 三 藤 毅